

15. The role of women in multigenerational families Ursula Lehr and
Joachim Wilbers (FRG)

Session VI: Other Household Structures

Chair: Elza Berquo (Brazil)

16. Household composition as a family resource Lea Sharmgar-Handelman
(Israel)
17. Characteristics of the aged in institutions Alice Day (USA)

Overview

Carolotte Hohn (FRG)

Spontaneous papers

1. Preliminaries to the study of the family in Western society H. V. Muhsam (Israel)
2. Correlates of postnuptial coresidence in Japan Hiroshi Kojima (Japan)
(廣嶋清志記)

家族構造と人口高齢化に関する国際シンポジウム

標記のシンポジウム(英語名で International Symposium on Family Structure and Aging)が1987年10月21日から25日まで中国北京市北京大学で開催された。この国際シンポジウムは北京大学人口研究所と英国ケンブリッジ大学 Cambridge Group for the History of Population and Social Structure が共催したもので、北京大学人口研究所は所長の張純元教授、ケンブリッジ・グループは Peter Laslett 教授が代表者であり、プログラム作成の責任者でもあった。このシンポジウムには72名の参加者があったがそのうち28名が中国以外からの出席者であった。著名な出席者として、ミネソタ大学の James Vaupel 教授、フランスの H. LeBras 博士、カナダ統計局次長の Edward Pryor 博士、ケンブリッジ・グループの James E. Smith 博士(米国人)が挙げられよう。中国人口学者若手ナンバーワンの北京大学 曾毅博士が実際の組織者であった。日本からは人口問題研究所の河野稔果所長が国際人口学理事として出席し、国際人口学会を代表して開会式の祝辞を述べた。なお人口問題研究所からは若林敬子地域構造研究室長も出席した。

シンポジウムは10月21日夕方は前夜祭で、実質的には22日から始まった。開会式に始まり、中国の家族サイズと構造のトレンド、家族ライフコースと展望、出生力と家族構造、集合的家族、西欧社会における家族構造とライフコース、人口高齢化の過程、高齢者を支える社会保障制度、人口高齢化のインプリケーションという各議題を討議し、24日夕方実質的シンポジウムは終わった。25日は北京市内関連機関の見学が行われた。

(河野稔果記)

JICA「メキシコ人口活動促進プロジェクト」への協力

国際協力事業団(JICA)は、1984年7月にメキシコ政府と締結した「メキシコ人口活動促進プロジェクト」の年度活動状況を評価し次年度の活動計画を策定するために、年1回の巡回調査団をメキシコに派遣している。本年度は、昭和62年10月26日～11月5日の11日間、大友篤宇都宮大学教授を団長とする5名から成る調査団が派遣され、本研究所からは阿藤誠(人口政策研究部長)が参加した。

仕事はもっぱらメキシコ市にある国家人口審議会事務局兼研究調査機関（CONAPO）において行われた。CONAPO側から本プロジェクトの進捗状況の説明を受け、日本から現地に派遣されている長期専門家との協議を踏まえて、日墨間の協定文書の覚書の改訂を行った。

本プロジェクトは来年9月末をもって終了することになるため、来年7月頃に最終評価ミッションの派遣が予定されている。そのため、今回のミッションでは本プロジェクトの最終成果（個別分野ごとの報告書）の確認を行い、来年の評価ミッションの評価項目について日墨双方で協議した。

（阿藤 誠記）

「上海市高齢化社会調査」への参加

田中荘司（団長：厚生省社会局老人福祉課老人福祉専門官）、冷水豊（東京都老人総合研究所社会福祉研究室長）、薩摩林康彦（エイジング総合研究センター総務部長）と当研究所の清水浩昭技官は、1987年11月27日から12月5日まで「上海市高齢化社会調査」に従事した。

今回の調査は、上海市計画生育委員会、静安区計画生育弁公室、華東師範大学人口研究所および上海人口情報中心が主体となって実施した。調査は、上海市静安区から無作為に抽出された約1,900人（60歳以上）を対象にした。

調査結果は、明88年3月頃までに分析され印刷物として刊行される予定である。

なお、今回の調査結果をふまえて来年度は、上海市郊外の農村部も含めた調査を実施する予定である。

最後に、今回の調査にあたって、桂世勳（華東師範大学教授）、李浩萍（上海市計画生育委員会副主任）、陳甲芳（上海市静安区計画生育委員会弁公室副主任）をはじめ華東師範大学、上海市計画生育委員会、静安区計画生育委員会、上海人口情報中心、上海市高齢化問題研究委員会、中国政府・計画生育委員会のスタッフおよび本調査を企画したエイジング総合研究センター（理事長 安孫子藤吉、専務理事 島村史郎、事務局長 吉田成良）の方々に大変お世話になったことを記しておきたい。

（清水浩昭記）

中国社会科学院等への研究協力

筆者（若林）は、日本学術振興会の短期派遣、およびその付加用務として48日間、本1987年9月14日から10月31日にわたり、中国を訪問した。前半の受入れ機関は中国社会科学院外事局、後半は中国社会科学院人口研究所が主となり、これに同社会学研究所と北京大学社会学部とが協力して私の日程按配を行ってくれた。

日本学術振興会を通じて中国社会科学院外事局に提出した研究テーマは、「中国人口問題研究に関する社会学的研究」として、認可・招待されていた。訪問先をしぼるにあたり焦点をおいたテーマは「中国少数民族の人口政策と人口動態についての社会学的研究」とし、地方、特に辺境地域の少数民族の実態をみることを主眼とした。幸いにしてこの希望は以下の様に中国社会科学院、およびその連絡をうけて各省の社会科学院が各々私の滞在中の按配努力をしてくれ、実りある成果をえられたことを深く感謝したい。（ ）内は会見した代表者名である。

・雲南省昆明

雲南省計画生育委員会（万慶華主任、周文敏）

雲南民族学院・民族研究所（李力院長、刀世勳、王敬騷、胡茂修、傅勤、劉剛）

雲南省社会科学院

路南彝族自治州石林風景区

・四川省成都

四川省社会科学院経済研究所（許改診）、西南師大学（馬延華）